ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-2	調査位置				北　緯	36 ° 37 ’ 39.0700 ”
発注機関	栃木県　日光土木事務所		調査期間	2008-02-04 ～ 2008-02-06		東　経	139 ° 27 ’ 38.5200 ”
調査業者名		主任技師	現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	767.01 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0.00 °
総掘進長	4.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
	766.26	0.75	0.75		砂礫 (GS)	暗褐灰			礫はφ10～30mmの亜角礫を主体に最大φ50mmを認める。マトリックスは表部10cm間は砂分を主体，以深は中～粗砂分と細粒土分で構成され、礫間を緩く埋める。局所で植物根を混入する。		02/05 0.40
1	766.01	0.25	1.00		風化粘板岩 (SI)	暗灰			風化・変質による脆性化が顕著でコアは土砂状で採取される。		
					粘板岩 (SI)	暗灰					
2						灰			岩塊は概ね新鮮で硬質である。GL-2.35m付近までは局所的に細かい層理の発達による礫状部があるものの、主たるコア形状は長さ5cm内外の棒状～片状で採取される。以深、GL-3.4mまではφ10～30mmの角礫状コアで採取されるが、コア自体にに脆さは無く、ハンマー打撃では金属音を発する硬度を有す。以深は、長さ5～10cmの棒状～片状コアを主体とする。全体に亀裂はあるものの、開口性のものは無い。		
3						暗灰					
4	763.01	3.00	4.00								

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50
1.00	50/0			50/0	>50
1.00					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						02/04
						02/05
						02/06